

# 大学図書館問題研究会 京 都

URL : <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34 京都橘女子大学 企画調査課 田北十生気付  
(Tel) 075-574-4112 (Fax) 075-574-4151

## 大図研京都セミナー2001

「ネットワーク環境下における図書館サービス」

●ホームページからも参加申し込みができます!

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/occ.htm>

**第2回 5月26日(土) 14:00~15:30 講演**  
**15:40~17:00 質疑**

**谷口敏夫氏 (光華女子大学)**

**「電子図書館の評価」**

場所：キャンパスプラザ (JR京都駅前)

参加費：1000円/1回 (第5回を除く)

主催：大学図書館問題研究会京都支部

セミナー終了後、懇親会 (会費 5千円)

第3回 6月23日(土)

大城善盛氏 (同志社大学) 「ネットワーク時代の情報リテラシー教育」

第4回 7月14日(土) 北克一氏 (大阪市立大学) 「メタデータと図書館」

第5回 8月4日(土) 大図研会員による個人発表3本 \*\*\*募集中\*\*\*

### 【お知らせ】

支部報編集部では会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。ホームページから投稿ができます。投稿ページは下記の URL からお気軽に!!

■ 支部報投稿 ■

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/re.c.htm>



|    |                             |
|----|-----------------------------|
| 目次 | 大図研京都セミナー 2001.....1頁       |
|    | お知らせ.....1頁                 |
|    | 第1回セミナーのアンケートのまとめ.....2頁    |
|    | セミナーの発表者募集中!.....4頁         |
|    | 「デジタル時代の出版メディア」に参加して.....5頁 |
|    | 第8回支部委員会の報告.....6頁          |

ご意見・ご要望、投稿はメール、又は FAX で  
編集気付 (dkamr302@kyoto.zaq.ne.jp) takita まで

# 大 四 研 京 都 セ ミ ナ ー 2001

## 第 1 回 アンケートのまとめ



報告：井上雅人

去る4月26日(土)に開催された第1回セミナーのアンケートの結果は、下記のとおりでした。

### I. アンケートの集計結果 参加者：40名 回収：21

#### 1. 講演について

##### 1) 講演の時間

A. 適当 (17) B. 長すぎる (0) C. 短すぎる (4)

##### 2) 講演内容

A. 期待以上 (0) B. 期待とおり (15) C. 期待はずれ (2)

D. その他 (2) 回答なし (2)

=> C.D. の特徴的意見

- ・ 事前に本を読んでいたもので、それ以上のものでなかった本よりもさらに最新情報が得られると期待していたが
- ・ 職場で必要な知識なので、レジメの後半部分を主に聞いたかった。
- ・ 総論が長かった
- ・ 本をよく読んでいなかったもので、理解が難しい。  
事前に著作を読むなどの予習が必要だった

##### 3) 講演で興味深かったこと(特徴点)

- ・ 著者の経歴に興味があった
- ・ 質疑が面白かった
- ・ 書店と図書館が似てきている
- ・ 大学図書館にとって書店、取次の付加価値とはどのようなものか  
書店の側からの意見を聞いたかった
- ・ 書店のデジタル化によって出版・流通のスムーズな流れがさらに悪化する  
のではないか
- ・ 書店からの視点が興味深かった
- ・ 電子時代の出版事情の動向を知ることができ、さらに電子図書館の課題も  
知ることができた。
- ・ 図書館サービスの有料、無料の論議が興味深かった

4) 質疑応答の時間 (80分) について

- A. 適当 (15) B. 長すぎる (2) C. 短すぎる (2) 回答なし (2)

5) 質疑応答の進行について

- A. 良い (3) B. ぶつう (14) C. 悪い (0) 回答なし (4)

6) 講師への質問

- ・ 印刷本の場合、ひとつの文化ともいえる古書店を生み出したが、デジタル古資料の場合、将来的に読書可能な状態で書店として在庫し、提供できるのか
- ・ 電子テキストを読むためのリーダー (デバイス) の今後について
- ・ 国、地方自治体の役割のようなものがあるのか
- ・ 書店の今後についての何を望むか

II. セミナーについて

1) セミナーを何で知ったか

- A. メーリングリスト (13) B. ホームページ (3) C. 支部報 (4)  
 D. 雑誌 (1) E. ちらし (2) F. 知人のすすめ (2)  
 G. その他—『大学の図書館』 (2)

2) セミナーの開講形式について

- A. 適当 (13) => コメント: 場所がわかりやすく交通の便がいい  
 B. もうすこし頻繁に (0)  
 C. もう少し間をあけて (2) => 2ヶ月に1回くらい  
 D. 平日の5時以降 (0)  
 E. 日曜日に開催 (2)  
 F. その他 (2) => 開始時間を早めてくれると最後まで参加できる

3) 興味のあるテーマ

- A. 電子図書館 (3) B. 電子ジャーナル (7)  
 B. 資料の組織化 (電子的資料を含む) (6)  
 C. 資料の保存、修復 (電子的資料を含む) (5) E. 資料の電子化 (1)  
 G. 著作権 (5) G. 職員問題 (3) H. 図書館システム (2)  
 H. 図書館経営 (5) J. ガイダンス、利用者教育、情報リテラシー教育 (7)  
 K. 学術情報の流通 (9) L. 図書館の自由 (4)  
 M. 障害者サービス (1) N. 利用サービス (OPAC) を含む (5)  
 O. 情報ネットワーク (0) P. その他 (0)

4) セミナーの受講料

- A. 妥当 (16) B. 高すぎる (0) C. 安すぎる (2)

5) セミナーについての意見

- ・ 京都支部の企画にはいつも期待している=>他支部か

- ・語学学習に興味があるのですが
- ・開始時間を1時間早くならないか

### Ⅲ. 感想から (要旨)

- 出版流通業に身を置く者として、日常的に触れ合う情報でありながら、なかなか整理して認識できず、大変勉強になった。今後、趣味としての読書や調査、研究において紙の書籍が果たしてきた役割がどうなるか、気になるところである。必要な情報を取り出すという意味では電子メディアが有効だが、従来の読書のような読みながら考え、考えながら読み、その中で思考力を深め、味わったりすることが消えていく流れに対し寂しさを感じずるものです。図書館の守るべきもの(教育としても)として静かに読書するというのを、電子化と並行して大切にしていきたいと思うものです。(媒体と空間、教育と指導法など)これらについては出版界のあり方、かかわり方にも関わる重要な問題だと思ふ。
- 湯浅氏から図書館は民主主義を発展させるための社会的装置なのだと言われましたが、大学図書館員でも無料原則についてしっかりした考えをもつようにしておきたいと思ひます。デジタル化と出版文化、流通などの変化の早さがよくわかりました。デジタル化されたものをコンピュータ等で読むことが普通になってきた世代が増えるとはいえ、人間の身体的、心理的影響もこれからの研究対象になりそうに思ひました。出版、デジタル時代、図書館、大学、教育 etc、幅広いお話を聞くことができました。

#### 大図研京都支部セミナー

ネットワーク環境下における書籍の流通の発展と読者の発展

1人あたり、発表時間は30分、質疑応答は20分で構成されます。  
 意欲ある方は奮って応募して下さい。

応募先は

井上雅人まで

立命館大学総合情報センター情報管理課

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

Tel:075-465-8222 Fax:075-465-8252

E-mail:ino-mst@st.ritsumei.ac.jp



大図研京都のホームページ URL

<http://www07.u-page.so-net.ne.jp/rg7/dtkk/index.htm>

#### 会費納入のお願い

2000年度までの会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。  
 会費についての問い合わせは財政担当支部委員の金森孝之さん、又は  
 最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

## 大図研京都セミナー2001

## 第1回「デジタル時代の出版メディア」参加して

順天堂大学図書館分館 伊藤 淳(神奈川支部)

京都セミナーの連続例会があると聞き、しかも第1回が湯浅俊彦氏であると知った時は、うれしいやら、悲しいやら複雑な想いが交錯したが、昨年8月にポット出版より、発行された「デジタル時代の出版メディア」の著者であるし、分科会の担当者としては、参加せねばならないし、直接お会いしてお話せねばならない事情があることなどから、早々と参加を決めていました。

さて、どんな事情があったかと申せば、実は… 昨年の分科会「出版文化」の内容を決め、講師をどなたに依頼しようかと悩んでいた時期に、湯浅俊彦氏のお名前を教えていただいた。(この時、内容的には電子出版・オンデマンド関係でと決め、中西印刷の中西秀彦氏に依頼して、内諾を得ていた。)が、まさか湯浅俊彦氏がお二人いらっしゃって、しかも同じ関西在住の出版関係の方とは露知らず。

ご存じのとおり、分科会ではもうお一人の湯浅俊彦氏(かもがわ出版)に依頼し、最終的には講演をお願いしたのでした。細かな事情はカットさせていただきますが、この場をお借りして、関係の皆様方にお詫び申し上げます。どうか、笑ってお許しくださいませ。

さて、4月28日は、前日から京都入りしていたこともあって、原稿用の文献を漁りに図書館を訪ねてから会場に。

はじめに書いた恥ずかしい経緯とは別に、わたくし本人としては、もうひとりの湯浅俊彦氏がどんな方なのかということよりも、例会の討議の時間がなくて長い時間をとっていることなどから、いろいろと意見交換できるだろうと期待し、かつ、分科会のネタを探しに。しかし充実した講演でしたが、もっとお話を聞きしたかったし、議論したかった。と言うのも、行間からほとぼる熱気そのまま会場に溢れていたからです。と、言いつつ途中で船を漕ぎだしてしまいましたが。我々の予習、復習も出来る本の内容そのままに講演していただいたので、より細かく話していただけた。が、いかんせん内容が実り多すぎて、時間のほうが足りなかったようで、残念。

個人的には、今夏の分科会の内容もほぼ決めることができましたし、京都をゆっくりと堪能できたので万々歳。第2回以降も、かなり期待できそうですね。今後ともよろしく願いいたします。



## 「デジタル時代の出版メディア」参加して



京都橘女子大学 田北十生（京都支部）

湯浅氏のお話の中で、「現在の本は、本であるべきものと、本である必要はないが本しかなかったので（出版手段が）本になっているものがある。したがって、後者はデジタル化の時代の中では、当然デジタル化されることになる。」ということと「情報に対するペイが確立していない中でオンライン化はマーケットとして成立するのか」という趣旨の発言があった。そんな発言を聞きながら私は、デジタル化の行方に対して、情報の利用者の立場から、ふと思ったことがある。

本であるか否かということよりも、その情報が私たちにとって便利かどうかで決まるのではないと思う。たとえば、芥川の「歯車」は、文庫本で読める。これがデジタル化されたとしても、それが利用者に便利だろうか。文庫本はポケットに入るし、もって歩いて、いつでも読める。読むための機械は要らない。電池寿命の心配もない。不要になればごみ箱に捨てても何の違法なこともない。一方百科全書となると話は逆になる。重い何冊もの本は始末に困る。持ち歩きもままならない。ところがデジタル化されたものは、パソコンさえあれば持ち歩きも出来るし電車の中でも見れる。語学の勉強をする場合は、デジタルされ、発音も聞けるとなれば、断然デジタル化されたものが良いに決まってる。

こう考えるとデジタル時代の出版物とはいえ、利用者がその行方を決めるのだと思う。

また、雑誌類は、私はデジタル化にもっとも適しているように思う。良くホームページに論文を載せても、アドレスが変わったり、内容が変わったりして、原典としての確定が難しいという意見があり、私もそれは感じる。だから、本では国立国会図書館の納本制度があるように、デジタル出版物も「デジタル納本制度」を設けて、デジタル版の国立国会図書館を作り、納品させれば、先ほどの問題は解決するのではないと思う。

ペイの問題は、セキュリティーと電子決済の両面が必要であるが、これが確立し、安全性が確保できれば、利用者は間違いなく、それを利用するようになると思われる。再版制度の問題も、吹っ飛んでしまうだろう。デジタル化の波の中で、今はまだ模索の時代だと思うが出版界も図書館界も、大きく変わるだろうし、変わらなければならないと思う。

## 第 8 回京都支部委員会報告

日 時：2001年5月8日（火）19:00 - 21:00  
場 所：京都大学附属図書館3Fスタッフラウンジ  
出 席：井上、大館、金森、田北、呑海 赤澤（オブザーバー）

【報告事項】 会員情報 ・ 退会者1名

【審議事項】

1. 支部総会について
  - 1) 議案書について
  - 2) 次期支部役員体制について（役員の一部交代を提案することが了承された。）
2. 大図研京都セミナーについて
  - 1) 第1回セミナー（4月28日）について ・ 参加者数 40名  
・ 懇親会も盛況で、親睦とともに有益な情報交換が出来た。
  - 2) 第2回セミナー（5月26日）について ・ 申込者は 46名。
2. 支部報について 前々回の決定事項を確認した。
3. 次回支部委員会 6月5日（火）